

月刊 都響

September 2023



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2023
9/23

Subscription Concert

第982回定期演奏会 C シリーズ

会場：東京芸術劇場コンサートホール

指揮／ローレンス・レネス

ヴァイオリン／タベア・ツィンマーマン

♪ サリー・ビーミッシュ：ヴァイオリン協奏曲第2番《船乗り》
(2001) [日本初演] (約30分)

♪ ラフマニノフ：交響曲第2番 ホ短調 op.27 (約60分)

 東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

今日のコンサートの前半は、日本で初めて演奏される曲です。作曲者は英国を中心に活躍するビーミッシュです。ヴァイオリンよりも一回り大きくて、人の声のように温かみのある音色を持ったヴィオラが活躍する協奏曲をお届けします。後半は、今年が生誕150年という記念イヤーのロシアの作曲家ラフマニノフの交響曲第2番です。雄大でロマンティックな世界をたっぷりとお楽しみください。

サリー・ビーミッシュ：ヴィオラ協奏曲第2番《船乗り》(2001)

ヴィオラ協奏曲第2番《船乗り》は2001年に作曲されました。作曲者のサリー・ビーミッシュはロンドン生まれ。現在も作曲家、ヴィオラ奏者、そしてナレーターとして活躍しています。彼女がこの曲を作るようになったきっかけは、9世紀に書かれた古い詩との出会いにありました。波の音、海鳥たちの賑やかな声や物悲しい鳴き声に包まれながら、船乗りがたった一人で異国の海を旅している——人生という長い旅を、船乗りの見聞きする情景や思いにたとえて描かれた詩です。

ビーミッシュは、この詩にちなんで、まずはヴァイオリンのための小さな曲を作りました。その後、音楽祭からのリクエストを受けて、この詩の世界をさらに深めてピアノ三重奏曲も作りました。アイディアは一段と広がり、今日演奏されるヴィオラとオーケストラによる本作へと展開していきました。

曲は3つの楽章で構成されています。**第1楽章は「不穏なアンダンテ」**。波の形や海鳥たちの声をもとにした音型を膨らませています。**第2楽章は「意地悪なアンダンテ」**。ファゴットが奏でる2音のモチーフに基づいて曲が続いていきます。物悲しいカッコーの鳴き声のように鳴り響き、舟旅の苦しさを伝えます。**終楽章は「思慮深いアンダンテ」**。これまでの2つの楽章で聞かれたモチーフが登場し、讃美歌風の音楽で締めくくられます。

この作品は、本日独奏をつとめるタベア・ツィンマーマンさんの夫でもあった指揮者デイヴィッド・シャローンさんを追悼して、タベアさんに捧げられています。シャローンさんは、この曲の世界初演を指揮する予定でしたが、その直前に突然亡くなってしまいました。

都響のヴィオラ奏者に聞いてみました！ ヴィオラの魅力とは？



ヴィオラはヴァイオリンより約10センチ長く、低い弦が付いています。音の違いは、キラッと澄んだ妹の声のようなヴァイオリンに比べて深く落ち着いたお兄ちゃんの声。

合奏では、リズムを刻み、ハモる内声を担当、時には素敵なメロディーを歌い上げたりと、多彩な楽しみを密かに味わえるところが魅力です。

ラフマニノフ：交響曲第2番 ホ短調 op.27

ロシアの作曲家セルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)は、音楽が大好きな家族のもとで育ち、4歳からピアノに親しんでいました。少年時代に通ったペテル

ブルクという街の音楽院での成績は今一つ。やんちゃで遊んでばかりいたラフマニノフは、試験に合格できないこともありました。見るに見かねた音楽家のいところが、モスクワの音楽院への転校を勧めてくれました。それからはピアノを真面目に勉強し、作曲にも情熱を注ぎ、見事トップの成績で卒業しました。

音楽院を卒業してすぐに、ラフマニノフは最初の交響曲を作りました。交響曲とは、オーケストラが演奏する規模の大きな音楽作品のことです。夢中になって書き上げた力作でしたが、お披露目の演奏は大失敗。ラフマニノフはすっかり自信を失ってしまい、一時期はまったく作曲する気持ちになれませんでした。しかしその後、オペラ劇場で指揮をしたり、ピアノ協奏曲が大変な人気となって、ふたたび作曲をするエネルギーがふつつつ沸いてきました。

交響曲第2番は、ラフマニノフが意欲に満ちていた33歳の頃(1906年から1907年にかけて)に作られました。この頃ラフマニノフは、ロシア国内の政治が安定していなかったため、ドイツの街ドレスデンに家族とともに暮らしていました。落ち着いた生活の中で仕事に集中しながらも、どこか故郷ロシアを懐かしく思っていたのでしょうか。哀愁に満ちた切ないメロディーや、胸が熱くなる情熱的なハーモニーがあちこちに登場します。

およそ60分もかかる大曲ですが、雰囲気異なる4つの楽章に分かれています。雄大で伸びやかな**第1楽章**、颯爽と大地を駆けていくような**第2楽章**、この交響曲の中でももっともロマンティックなメロディーが登場する**第3楽章**、華やかで勢いに満ちた**第4楽章**で構成されています。

文/飯田有抄(クラシック音楽ファシリテーター)



交響曲第2番を作曲した頃のラフマニノフ

指揮 ローレンス・レネス Lawrence RENES, Conductor



©Mats Bäcker

マルタ系オランダ人指揮者。オペラとシンフォニー双方の分野で高く評価され、オーケストラと歌手とのバランスをとる才能や、情熱的でニュアンスに富んだ演奏が称賛されている。これまでにリヨン国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団などたくさんのオーケストラを指揮、オペラではケルン歌劇場などに登壇している。かつてはスウェーデン王立歌劇場音楽監督を務め、モーツァルトから21世紀までのレパートリーに取り組んだ。現代作品の熱心な支持者であり、ジョン・アダムズから厚い信頼を得ている。都響とは3度目の共演となる。



ヴィオラ タベア・ツィンマーマン Tabea ZIMMERMANN, Viola

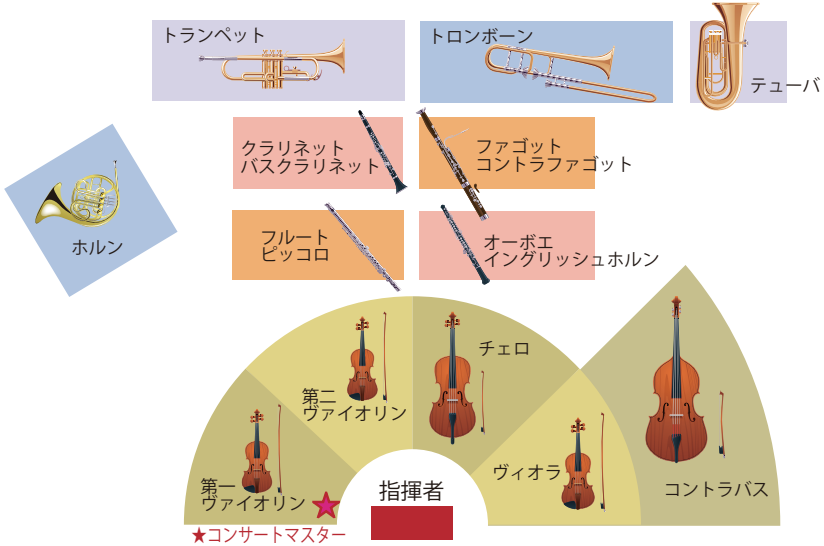


©Marco Borggreve

ドイツのルール生まれ。3歳でヴィオラを始める。フライブルク音楽大学でウルリッヒ・コッホに、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院でシャンドル・ヴェーグに師事。ジュネーヴ国際コンクールなど3つのコンクールで優勝。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団など世界の名だたるオーケストラと共演を重ねている。フランクフルト音楽賞など多くの賞を受賞。2002年~23年までハンス・アイスラー音楽大学ベルリンで教授を務め、現在はザールブリュッケン音楽大学とフランクフルト音楽演劇大学で教鞭を執っている。都響とは1990年以来たびたび共演している。

オーケストラ配置図（9月23日 第982回定期演奏会Cシリーズ）

<p>2曲目：交響曲第2番で使用する打楽器</p> <p>大太鼓、小太鼓、シンバル、グロッケンシュビール</p> 	<p>ティンパニ</p> 	<p>1曲目：ヴァイオラ協奏曲で使用する打楽器</p> <p>大太鼓、小太鼓、トムトム、テンブルブロック、サスペンデッドシンバル、シズルシンバル、アンティークシンバル、レインスティック、チューブラーベル、マラカス、トライアングル、マークツリー、シロフォン、テンブルブロック</p>
--	--	--



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO 東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として1965年に東京都が設立しました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。